

課題名

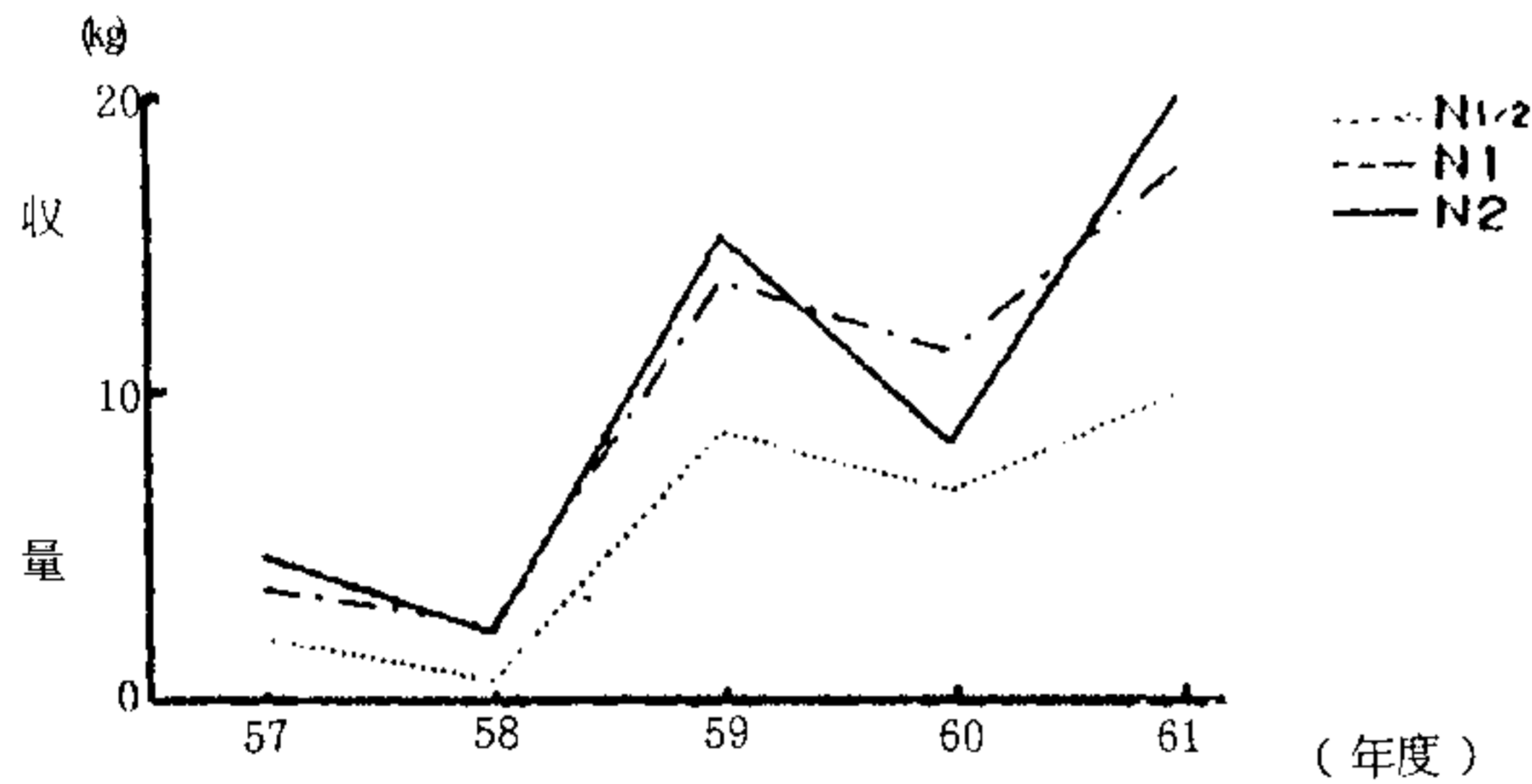
30. ビワ園の適正窒素施用量について

成果の要約

窒素施用量としてN1（県基準量）、N1/2（同半量）、N2（同倍量）の三水準を設け、収量と果実品質を調査した。

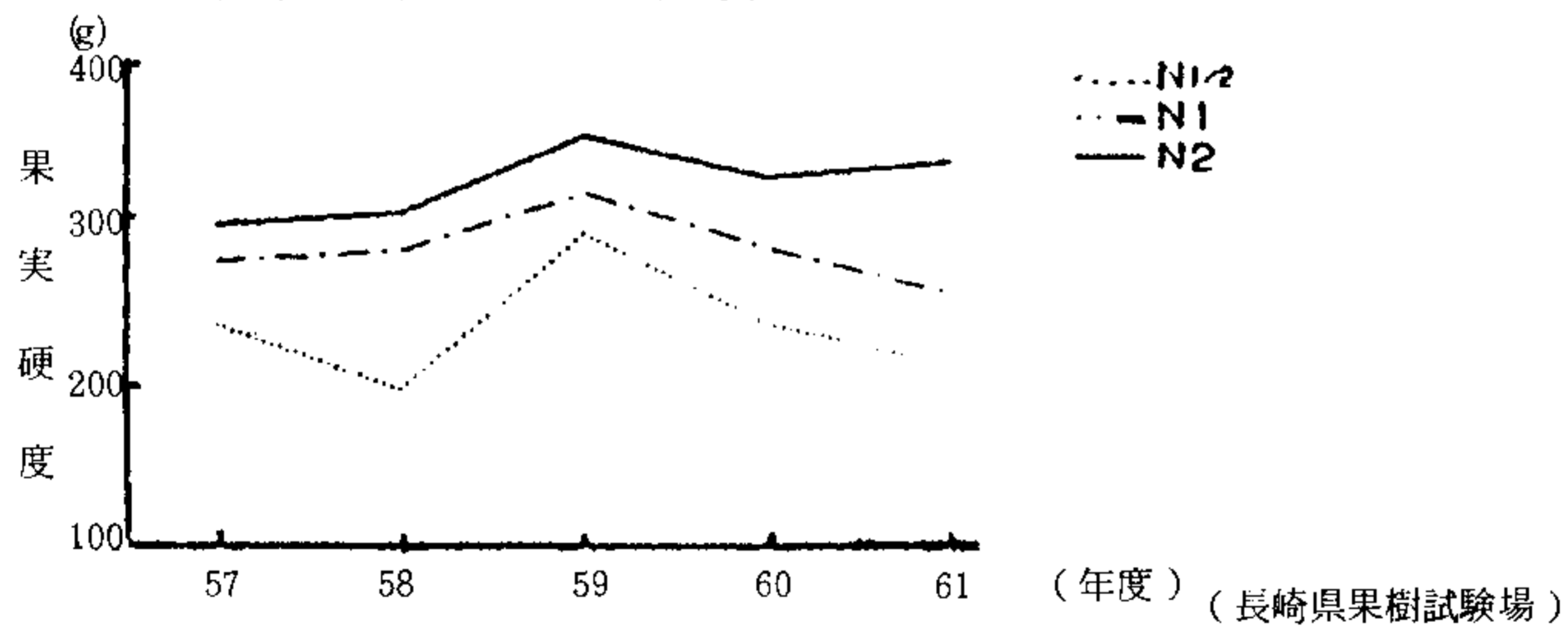
- 1) 一樹当たりの収量は、N1/2区が最も少なく、N1とN2区には大きな差は認められなかった。
- 2) 窒素施用量の増加に伴って、果実硬度が高くなる傾向が認められた。また、果実糖度は窒素施用量が多いほど高く、酸含量は逆に少ない傾向がみられた。
- 3) 以上の結果より、総合的にみてビワの適正窒素施用量は、N1区付近にあると推定された。

成績



第1図 収量の年次変化

概要



第2図 果実硬度の年次変化